14
-中・西部-

山口 美穂（やまぐち みほ）

jamais vu（ジャメビュ）代表

応募のきっかけは？

医療職に就いていましたが、「全然違う場所で全然違うことをしたい」と考えるようになりました。祖母が山口県出身で山口の話は聞いていて、協力隊の募集ミッションが「ニューツーリズムの形成」ということで、スポーツ系トレーナーの専門学校での経験を活かせるとも思い応募しました。

隊員時代の思い出を教えてください

最初、やることが具体的に決まっていなかったので、焦りというか悩みというか、1年後の見通しを立てられるか不安でした。そんな時に、先輩協力隊員と宮崎県へ「SUP（スタンドアップパドル）」の研修に行き、その経験で不安が吹っ切れました。SUPというやることを見つけられ、山口での暮らしにも慣れたというのが重なったのだと思います。

それ以降、「協力隊活動では何をやってるの？」と聞かれても「これ（SUP）やってます」と自信を持って言えるようになり、気持ちも楽になりました。

大変だったことは？

着任当初は無意識に気が張って、ストレスやプレッシャーでしんどかったです。でも、SUPという活動の軸ができたことで、地域の方からも「情報誌に載ってたのを見たよ」と声を掛けられたり、SUPが認知されることを感じられるようになりました。

活動中のキーパーソンを挙げるとしたら？

先輩協力隊員2人の存在ですね。人を紹介してもらったり、活動に同行させてもらいました。

SUP体験会

現在、そしてこれからについて

卒業後は市役所の非常勤職員をしながら、SUP体験受入やスポーツ指導の事業を開始するための準備をしていました。これからは、「SUPに重点をおいた年にしよう」と決意した矢先、コロナの影響で予定していたイベントが次々と中止になりました。今は、パーソナルトレーナーの資格取得を目指しているので、実務経験を積みながら、いつでも活動できる態勢でいます。

体を動かすことを気軽に継続する人を増やしていきたいですし、SUPや夏場の海など、地域に当たり前にあるものを好きになったり、地域外に出ても思い出せる場所をつくっていきたいと思っています。

協力隊を目指す人や後輩に伝えたいこと

任期中は、いろいろ挑戦させてもらえる期間なので、どんどんやってみてほしいです。ただし、やりたいことや想いもあると思いますが、外部から来ているので、まずは地域を知ろうという姿勢が大切です。地域の方が助けてくれるから活動ができます。そして、甘えられるところは地域の方に甘えてください。

▼山口市南部の海

山口 美穂さん（やまぐち みほ）

協力隊として

| 着 任 地 | 山口市
| 活動期間 | 2016年7月～2019年6月
| 活動内容 | ニューツーリズムの形成

現在の仕事

jamais vu（ジャメビュ）代表
| ホームページ |
https://jamais-vu7.com/

隊員時代：
先輩協力隊員とのワークショップ

山口さんのあゆみ

- 2016.02 前職の退職を考え始める
- 2016.07 協力隊着任
- 2016.10 宮崎県で1週間のSUP研修
- 2019.06 協力隊卒業
- 2019.07 個人事業登録

屋号のjamais vu（ジャメビュ）は「日常見慣れたものを初めて見たと感じる体験」や「実際はよく知っていることを初めてのように感じること」という意味